



津軽まほろば会会長

長谷川 亨

令和元年10月▶

(有)長谷川亨建築設計事務所代表取締役

ごあいさつ

津軽まほろば会が設立15周年を迎える年となりました。

これもひとえに会員の皆様、歴代つがる市長様、つがる市関係者様のご指導、ご支援並びに東京県人会様、友好団体様のご協力の賜物でございます。

また、当会が今日を迎えられることは初代会長工藤則次様をはじめ歴代の会長、それを支えられた役員の皆様がお互いの力を結集し、自主的な組織へと発展させてきた結晶と存じます。

改めてこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

当会の生い立ちですが、2005年（平成17年）に木造新田1町4村（木造町・森田村・柏村・稲垣村・車力村）が合併、青森県九番目の市として新制つがる市が誕生いたしました。

それに伴い2007年（平成19年）「旧津軽まほろば会」と「車力ふるさと倶楽部」が一緒になり「新制津軽まほろば会」の設立となりました。

本会は、関東に居住するつがる市出身者及びゆかりの方々に組織され、設立目的は、会員相互の親睦を図るとともに、つがる市勢の発展に寄与するため様々な支援をすることです。

「津軽まほろば会」の名前は作家司馬遼太郎の街道をゆくシリーズで、津軽・下北を旅した時の「北のまほろば」編に由来しているとお聞きしました。

「まほろば」は「古事記」「日本書紀」に登場する伝説の英雄「日本武尊」が死に臨み「異郷にあって望郷の思いを込めて」詠ったうた「倭（やまと）は国のまほろば、たたなづく青垣、山こもれる、倭（やまと）

しうるわし」に登場します。

「まほろば」は古代5・6世紀ごろの古語でまた「津軽」も同時期のアイヌ語であると司馬は記しています。

そして「まほろば」には「素晴らしいところ」「住みやすい場所」という意味があります。

会の活動は、年に1回開かれる「定期総会・懇親会」、「歴史まち歩き」「観桜会」などの会員同志の親睦会の開催、関東で開かれるつがる市物産販売の支援、社会福祉協議会様への寄付、友好団体様の交流会参加など多岐にわたっております。

さて、本会の節目に当たる15周年の記念行事ですが、2021年9月～2022年までを事業期間といたします。

事業を実行するに当たり昨年より、新型コロナウイルスが猛威をふるう特殊事情があり、その終息の時期等を考慮せざるを得ません。

上記活動に加え、「15周年記念誌」の発行（2022年7月頃予定）を中心に、「ふるさと訪問旅行」、記念交流会（2022年9月予定）を企画いたしております。

この事業の実現のため会員・役員が力を結集いたしており、本会の発展に寄与できるものと期待いたしております。

今後とも、皆様の温かいご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます、あいさつといたします。



津軽まほろば会 初代会長

工藤 則次

平成19年10月 ▶ 平成24年9月

今年、「津軽まほろば会」が設立15周年を迎え、ここに設立15周年記念誌を発刊できますことは、誠に喜ばしいことと思います。

当会は、平成10年12月5日に設立した「木造まほろば会」（会長 工藤則次 平成17年2月に、木造町、車力村、柏村、森田村、稲垣村の1町4村が合併してつがる市が誕生したことにより、平成17年9月に開催した総会で津軽まほろば会と名称変更）と、設立時期は定かではないが、「木造まほろば会」が設立した以前から組織され活動しておりました「車力ふるさと倶楽部（会長 塩見敬也）」が併合移行（対等合併）して誕生致しました。

誕生した経緯を少し述べますと、平成18年1月に、つがる市側から二つの組織を統合したいと言う提唱で、つがる市のふる里会担当部署・財政企画課（財政部長 山本有彦 財政企画課長補佐 山口健吾）と「木造まほろば会」と「車力ふるさと倶楽部」の役員を中心とする組織「つがる市人会」（仮称）懇談会を開催し、平成18年7月に併合を検討する「幹事会」を組織し、その後3回の幹事会を開催して、年内にふる里会・「つがる市人会」（仮称）への併合設立総会を開催することを合意したのであります。

その当時、柏村、森田村、稲垣村には在京ふる里会はなく、「わ・五所川原会」などのふる里会に所属して活動しておられましたが、柏村出身代表として小関克洲氏（元わ・五所川原会役員）、森田村出身代表として七戸俊治氏（当時船橋市会議員）が幹事会に参加されておりました。又、稲垣村からの代表者の参加はありませんでした。

そして平成19年10月21日、日本青年館において、来賓50名、会員70名、計120名で、当日これまでの「津軽まほろば会」の解散総会と「新生津軽まほろば会」設立総会の時間をずらして開催し、誕生したのであります。

尚、幹事会では会の名称を「関東つがる市人会」（仮称）又は「つがる市人会」（仮称）

とすることを内定しておりましたが、総会の席上、新組織の名称を公募して一番多かった名称「津軽まほろば会」とするべきでないかと動議が出され、これまでの「津軽まほろば会」と区別する意味で「新生津軽まほろば会」とすることを決議したのであります。

そして、4～5年間は「新生津軽まほろば会」の名称として運営・活動してきましたが、いつの間にか「新生」の文字消えるようになり、現在は「津軽まほろば会」として通用するようになり、活動するようになったところでありました。

又、初代会長は、車力ふるさと倶楽部側からと、津軽まほろば会側は譲渡するかたちでお願いし、塩見敬也氏も受諾し就任する予定でありましたが、設立総会間近になって、塩見敬也氏から、「私は70歳を過ぎた高齢者になったので津軽まほろば会側から会長を出して下さい」と私に電話連絡があり、不肖・私が引き受けることになったところでありました。

設立総会の際に特筆出来ることは、アトラクションゲストとして、第1部にギタリストの佐々木シローさん（森田村出身）と第2部に津軽の歌姫・デュオ「サエラ」（ボーカル・菊地由利子 鶴田町出身、ピアノ・高橋朋子 五所川原市出身）をお招きし、ギター独演会とミニコンサートを開催し、設立総会と言う記念行事を盛り上げていただいたことでもあります。

当会設立時から3期6年間、多くの方々の協力により、微力でありましたが、当会の運営・活動を軌道に乗せることが出来、また当会及びふる里・つがる市のためにお手伝いすることができたと自負しているところでもあります。

最後に、津軽まほろば会がこれまでの歴史と良き伝統を継承し、つがる市のふる里会として、令和の新しい時代にふさわしい組織として進化し、更なる発展を祈念して挨拶と致します。



津軽まほろば会 2代会長

斉藤 きよ子

平成25年10月 ▶ 平成27年9月

津軽まほろば会設立15周年おめでとうございます。私がこの会にお世話になったことを心から光栄に思います。

当初、私が会長の大役を仰せつかりました時のことです。私には荷が重すぎると申し上げて、固く辞退する旨申し上げました。

それというのも、前任の工藤会長は高い見識と豊富な経験とで、終始本会のためにご尽力下さり、数多くの業績を残されました。

経験も浅く才能もない私は、到底その後任ではないと、思っておりました。

私は副会長をしておりましたので、「前会長運営の方法を見ているはずだから、それを見習ってやってくれれば大丈夫」と言われ、当時の事務局長（後任の会長、金子氏）をはじめ、理事の皆さんがお手伝いをしてくれるという事で、引き受けた次第でございます。

前任の工藤会長に、何か心に残るような催しをしてあげたいと考えました。

そのころは、会員の皆さんのなかで体を壊す方もおられ、私は当時、治療所を経営しておりましたので、「笑う事によって、健康は取り戻すことができる」と言うことを勉強しておりました。

「お笑い劇場をやったらどうだろうか」と決心し、山本誠さんと鱒ヶ沢会の会長にお願いして、3人で考えた結果、皆様もご存知の吉幾三の「とも子の歌」を寸劇でやることを決めました。私なりに精一杯、配役も考え工藤前会長と当時の市長（福島市長）も舞台に上げることを考えました。

お笑い劇場は皆様に喜んでいただき、特に、東奥日報の支社長から、「こんな楽し

い、ふるさと会は初めてだ」と言われ、ホッとしたのが思い出されます。

つがる市のお役に立つには何がいいのか考えたところ、当時、メロン・りんご販売は土曜日1日だけのお手伝いだったのですが、それを「つがる市のイベントはすべてお手伝いしよう」と思い、現在も続けております。

今特に心に残っているのは、つがる市10周年の式典の際、つがる市にディズニーのキャラクターに来て頂き、そのパレードに、一緒に参加したことです。

最後に、一日も早い新型コロナの終息を願い、以前のように賑やかさを取り戻せることを、願っております。



ディズニーパレードに参加



津軽まほろば会 3代会長

金子 謙

平成27年10月 ▶ 令和元年9月

3代目会長として2015年10月から4年間、又「新生津軽まほろば会」発足から2015年9月までは事務局長を務めさせていただきました。

在任中は、会員の皆様及びつがる市役所関係者・つがる市東京事務所の皆さんには、大変お世話になり厚く御礼と感謝申し上げます。

この機会ですので、在任中特に思い出深い二つの事柄を以下に述べたいと存じます。

① 2017年の津軽まほろば会定期総会懇親会の余興で、津軽地方に昔から伝わる人形芝居を真似て、人間人形劇をやるという事になりました。

題名は「津軽の嫁取り」出演メンバーは会員で芸達者な3人（山本誠さん、斎藤仁さん、片山みつ江さん）に主役をお願いし又裏方には・脚本（金子）・メイク（斎藤きよ子さん）・衣装（青木せい子さん）を配して、リハーサルを繰り返して行い総会当日に備えました。

その結果、メイクの可笑しさと本場以上の津軽弁も手伝ってことのほか人間人形劇は、皆さんに大うけで会場は笑いの渦と化した事を覚えております。その時の様子は地元紙に、早速写真付きで掲載されました。

② 2018年暮れに千葉県野田市清水公園において「つがる市農産物販売会」が開催されて、当会からも5人が販売員として参加する事になりました。

その時は最初から売れ行きがいつもと違い、まさに目の回る忙しさで販売か

ら1時間余りで、りんご50箱が完売してしまいました。

終了時には販売員にも経験のない疲れが残っていましたが、なぜか心地よい疲れであったように思いました。

やっぱりりんごは青森産だと、真剣なお客さんを見て納得した次第でありました。



人間人形劇「津軽の嫁取り」



「つがる市農産物販売会」野田市